

1. 教育の責任

成人期は身体の生理的状況が安定し心身ともに充実している時期である一方で、加齢により様々な機能が緩やかに衰退し始める時期にあります。また、仕事や家庭および地域において社会の一員としての役割と責任を担う時期にあります。成人看護学では、このような成人期の発達課題や特徴を踏まえ、健康障害を持つ対象者の病態や治療過程の理解だけでなく、健康障害を持つ対象者の生き方を尊重した看護が実践できるよう授業、実習を展開しています。

2. 教育の理念

国際看護学部の学びの特色である、「学士力」「実践力」「国際力」を備えた学生の育成することを基盤に、対象者の健康問題と多様な社会背景や価値観、生き方を理解するための学習行動を身につけ、対象者に沿った看護を主体的に学ぶことを支援しています。

3. 教育の方法

慢性看護学援助論では、慢性疾患の特徴と治療経過について病態生理から振り返るとともに、疾患が対象者やその家族の社会生活にどのように影響するのを知り、慢性疾患患者の身体的、心理・社会的特徴の理解を促します。また、慢性疾患において必要とされる看護、社会資源についての理解を促します。そのため、教員と学生あるいは学生同士のコミュニケーションの時間、グループによる共同作業、作業結果を発表する、交流するといった方法を実施し、学び方を身に付け、その後に新たな知識・技術を自ら学んでいくことにつながるよう学習支援に努めています。

慢性看護学実習では、座学で学んだことを基に個別的な看護を実践していきます。学生が対象者の身体的・心理的・社会的側面を理解するための情報収集、多様な社会背景にある対象の生き方を尊重した看護過程の展開ができるよう支援します。また、対象者や臨床指導者と援助的人間関係を成立し発展させることができるよう努めています。

4. 教育の成果

慢性看護学実習では、病棟の退院支援カンファレンスに参加することで対象者の退院後の生活について理解し、実際に退院後の生活に向けた実践を行うことができた学生もいました。講義においては一方向の授業展開となったため、学生の理解を促すための双方向での授業展開に努め、「学び方」を学べる「学習の共同化・相互性化」の強化が必要であると考えます。

5. 改善への努力と今後の目標

講義や実習後に指導内容と方法の振り返りを行い、学生の学習行動において躓きとなる要因は何か、課題の発見、解決を実践的に行うための学生に必要な支援は何かを検討し、改善していきます。

【添付資料】

